神戸新聞　（第３種郵便物認可）

ワークブック　仕事のいま　46

# 最適な仕事探し後押し

## キャリアカウンセラー

転職や起業、在宅勤務、育児との両立…。多様な働き方が可能になる一方で、「どう働くか」についての悩みも広がっている。そんなとき、一緒に考え前向きを押してくれるのがキャリアカウンセラーだ。女性の起業を支援する企業や行政機関、大学などでカウンセリングやセミナーなどを担当する瀧井智美さん㌢に会った。

◇　◇

再就職を目指す女性や就職活動を控えた大学生、フリーターの若者たちの相談に乗っています。これまで約八百人。内容は「自分に何が向いているか」「家庭と仕事を両立できるか」などさまざま。その人の経歴や希望を聞きながら一緒に考え、最終的には自分で答えを見つけてもらいます。

初めはうまくいかず反省ばかりでした。本人に考えてもらうような質問をしないといけないのに、情報や事例を一方的に伝えてしまったり。コーチングを受けたり勉強会に参加したりして技術を磨いています。

いま、世の中にある職業は約五千種。さらに知識を広げようと、厚生労働省の助成対象になっているCDA（キャリア・デベロップメント・アドバイザー）資格を勉強しに行ったりもしました。

二〇〇〇年にCDA資格が誕生し、その後キャリア相談員が急増。カウンセラー、アドバイザーなどさまざまな呼び名があるが、〇一年から厚労省は「キャリア・コンサルタント」という名称を使用。同省の認定試験に合格した「有資格者」は約二万人。十分と認める講座を受けた人は約四万三千人いるという。

資格は企業の人事部門の方や社会保険労務士などが仕事の幅を広げるために取ることが多く、それだけで生計を立てている人は少ないですね。私のような人事経験がないケースも珍しいようです。

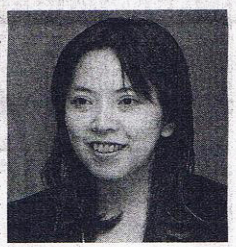
私自身、出産後に働き方に悩み周囲に相談に乗ってもらって道が開けた経験から、この仕事を選びました。実家は遠く、夫も自営業で忙しかったのでやむなく退職しましたが、育児中に就職セミナーに参加したりして働き方を模索。でも、採用面接に行くと「子どもが小さいのにもう働くの？」などといわれ、迷ったり落ち込んだり…。その後パソコンインストラクターとして就職し、生徒さんから仕事の相談を受けることも多く、悩む人の役に立ちたいと思うようになりました。

中高校生のキャリア教育や女性の再就職支援などに国を挙げた取り組みが始まり、活躍の場はどんどん増えている。

仕事はつらいこともありますが、人との出会いや経験で大きく成長できる。やりたいことをやって生き生きしていたら、家庭にもいい影響を与えると思います。すべての人が自分がどう生きたいかを自分で考え、かなえていけるような社会にしたい…そんな願いを込めて、この仕事を続けています。

（萩原　真）

大学などでは大人数の前で講義をすることも。「知らない人の前だとまったく緊張しない」という＝神戸市中央区北野町４（撮影・宮路博志）



**瀧井　智美**（たきい・ともみ）

1973年生まれ。滋賀県出身。大阪市のＮＰＯ法人の養成講座で2003年、資格取得。現在は女性起業支援の「クリエイティブスタジオ凛」（神戸市）と加古川市男女共同参画センターなどで活動する。夫と３人の娘の５人家族。神戸市在住。

**メモ**

キャリアカウンセラーは、民間の学校や特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）などがそれぞれ独自に講座を開いて認定している民間資格。例えば、全国に８教室を持つ日本マンパワーでは、３カ月の通信講座で歴史や理論を学び、８日間の通学で実践を練習。筆記試験とカウンセリングの実技試験に合格すれば認定となる。資格がなくとも、豊富な社会人経験を生かして活動する人もいる。キャリア・コンサルタントは受ければ来年度にも国家資格となる見通し。

- 仕事で悩んだ経験が強みになります。
- 社会を広く知ることが大切です。
- じっくり話を聞く根気強さが必要です。